

## 10月14日 将来の山を見据えた選木作業 ～裏木曽古事の森での新たな取組！～

【東濃森林管理署】

10月14日、東濃森林管理署管内の加子母裏木曽国有林に設定している「裏木曽古事の森」にて将来に向けて残す木の選木作業を地元の皆様と共に行いました。



選木の説明を聞く参加者

当日は、伊勢神宮 神宮司廳営林部より講師をお招きし、実際に伊勢神宮の宮域林で行われている選木のポイントや注意等を聞かせていただきながら作業を行いました。



選木のポイントを話す神宮司廳営林部

当該地は、樹齢111年生の人工林のヒノキ林ですが、胸高直径（根際から120cmでの直径の太さ）、樹高、形状も様々で選ぶことは困難でしたが、一本一本丁寧に指導していただきながら作業を行いました。



選木作業中



選木した木への表示をする職員

今回は、「裏木曽古事の森」全体では23haの内1haでの作業でしたが、このエリアを地元の皆様と共に広げていきたいと考えています。

※「**裏木曽古事の森**」とは作家の立松和平氏が提唱した、神社・仏閣・城郭・旧家などの歴史的木造建築物の修復に必要な樹齢200年から400年の大径材を育てる超長期の森づくりです。

岐阜県の裏木曽地域は長野県の木曽谷地域とともに木曽ヒノキの良材の産地として全国に知られており、我が国を代表する木造建築物（伊勢神宮、名古屋城など）の御用材として伐出され姫路城昭和の大修理では、西の心柱に裏木曽地域のヒノキが使われました。

今後においても貴重な木造建築物の修復・再建用材として供給できることを目的に地元の皆様と一緒に山づくりを行う森林です。